

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

早生樹「センダン及びヒノキの混交植栽試験」 現地検討会の開催

【兵庫森林管理署】

8月4日（水）、兵庫県たつの市内に所在する^{ふだらくやま}札楽山国有林において、兵庫県内の行政機関や民間林業事業者の関係者など、総勢32名の参加者を得て、早生樹であるセンダンと日本の代表的な植栽樹種であるヒノキの混交植栽試験の現地検討会を開催しました。

近年、行政機関や林業・木材産業関係者からの関心が高まっている早生樹ですが、国内では日本の代表的な植栽樹種であるスギやヒノキなどと混植された取組は多くありません。

昨年の現地検討会の際に実施したアンケート調査で、早生樹を混植することにより造林木では収入を得られない育林初期の段階で早生樹（植栽後20年で収益）により収益が得られないかとの関心を持った意見が多く寄せられました。このことから、今年度の現地検討会ではセンダンの生育初期における保育作業や保育コストの検証と造林木への影響の確認などを行い、その情報を県内林業関係者に発信する目的で開催しました。



職員による穴掘機「オーガ」の実演

当試験は林木育種センター関西育種場、京都府立大学大学院、兵庫森林管理署の三者による共同試験であり、検討会では、林木育種センター関西育種場の宮下主任研究員から、国内外の事例を交えたセンダンの特性や木材としての用途についての説明、京都府立大学大学院の糟谷助教からはセンダンの育成に適した土壌に関する説明をいただき、



センダンの木

センダンについての理解を深めました。その後、当署職員による穴掘機「オーガ」を用いて植付穴を掘る実演を行い、最後に宮下主任研究員から通直なセンダンに仕立てるための芽掻き作業^{*}についての注意点などの説明を受けました。

質疑応答では、センダンの保育作業の必要年数、獣害対策、萌芽更新の可能性、種子や苗木の調達方法、芽掻き作業など数多くの質問や意見が出されました。

今後、兵庫県内では主伐・再造林の拡大が見込まれる中、ヒノキなどの主要樹種の植栽初期段階に収入を得られる一つの手法として、引き続き、林木育種センター、京都府立大学大学院と協力しながら、センダンとヒノキの混植試験における成果等の情報発信を実施していきます。

^{*}芽掻き作業：幹の通直性を確保するために行う作業で、春期（4～5月）に芽が展開したら、頂芽以外の芽を取り除きます。

令和4年度「近畿中国森林管理局防災訓練」を実施しました。

【企画調整課】

近畿中国森林管理局では、9月1日(木)の「防災の日」にあわせて、「令和4年度近畿中国森林管理局防災訓練(災害対策本部設置運営訓練)」を実施しました。

今回の訓練では、停電を想定し、災害対策本部で使用する「機材設置訓練」と「災害対策本部設置運営訓練」の2部に分けて行いました。

第1部の機材設置訓練では、経理課長指示の下、災害対策本部員をはじめとした局職員により発電機や情報機器の設置を行い、特定の職員に頼るのではなく誰もが当事者として対応するという意識の醸成を図りました。

第2部となる災害対策本部設置運営訓練では、和歌山県南部を震源とする巨大地震(南海トラフ地震)が発生したとの想定の下、大阪市内に居住する局災害対策本部員が局庁舎に参集し、災害対策本部会議を開催しました。

この際、局庁舎が停電しているとの想定の下、第1部で設置した発電機により本部会議で使用する機材の電力確保を行いました。各課等からは、対応状況等の



非常電源を使用しての対策本部の様子

報告を行い、このうち治山課の報告では、デジタル技術を用いた訓練として、「山地災害アプリ」のデモンストレーションを行ったほか、和歌山森林管理署からの状況報告では、災害時にも活用可能なタブレットやモバイルWi-Fiルーターを使用するなど、より実践的な訓練を行いました。

訓練終了後、柏原局長から「災害はいつどこで発生するか分からない。どのような場合でも指揮命令系統が適切に機能するよう日頃から準備しておくこと」等の講評がありました。

近畿中国森林管理局では、職員一人一人の防災意識を高めるとともに、災害時における迅速かつ適切な対応に引き続き全力で取り組んでまいります。

林地保全に配慮した森林施業勉強会～日本植生株式会社見学～

【岡山森林管理署】

近年、局地的豪雨の増加等に伴い、山地災害が激甚化・多様化していることを踏まえ、国有林においては、林地保全に配慮した森林施業を進めることとしています。

一方、当署においては主伐・再造林を進めている中、丸太を搬出するための作業路網を開設した作業が主体となりつつあり、地形・地質に配慮した作設に取り組んでいるところですが、雨滴の集水・流れ込み等により路肩の一部が崩落した箇所が見受けられる状況にあります。そのため、「林地崩壊に至るメカニズムと早期復旧に向けて」をテーマに若手職員を中心とした勉強会として、8月24日、日本植生(株)(岡山県津山市高尾)の研究施設等を訪問し、林地保全への理解を深めました。

当研究施設においては、裸地化した法面の侵食を防止するため、植物が持つ土壌の流亡抑制効果などを利用し、各種試験を繰り返しながらより良い製品の開発を行っているとの説明がありました。施設内には法面の緑化対策後、数年から数十年経過観察できる箇所が数多く設置されており、対策後の法面遷移の様子をよく理解することができました。また、人工降雨試験機で再現された、時間雨量100mmの実証試験では、裸地化した斜面の崩れやすさを改めて実感しました。



緑化対策後の法面遷移の様子



林地崩壊のメカニズム説明後の意見交換会

今回の勉強会を通じて、開設された作業道等の法面保護など、適切な維持管理をおこなう重要性について改めて理解することができました。

インターンシップ in 広島森林管理署

【広島森林管理署】

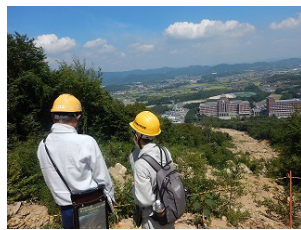
8月30日(火)から9月1日(木)までの3日間、近畿大学の学生1名が当署でインターンシップに参加しました。インターンシップは、就業体験実習を通じて職業意識を醸成するとともに、国有林野事業に対する理解を深めてもらうことを目的としています。

3日間のインターンシップでは、治山事業の監督業務や施設点検、収穫調査の実務、造林の除伐調査、シカの被害対策、木材生産の取組、都市近郊林での危険木処理について、現場実習と座学を通して体験しました。

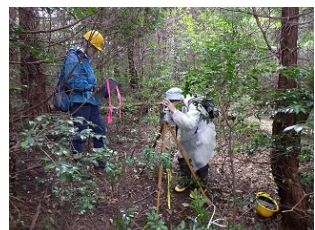
中でも、当初から学生が関心の高かった豪雨災害の復旧の状況については、職員の説明を熱心に聞き取っていました。また、測量や樹木の成長調査は雨の中での作業となり、現場作業の大変さも体験できたと思います。



治山工事の監督業務について実習（東広島市八本松町）



災害復旧計画についての実習（東広島市黒瀬町）



コンパス測量の実習（東広島市福富町 段原山国有林）

【参加した学生の方からのコメント】

「今回の3日間のインターンシップによって、森林管理署の業務内容や国有林の概要、公務員として働くということについて、より理解が深まりました。

治山の現場では、土砂の崩れ方や目的によって工事の施工方法を変えていること、森林管理署の職員と現場の施工業者との関係性など、大学の講義や調査のみでは学びにくい現場の実情を学ぶことができ、実際に森林管理署で働く際のビジョンが想像しやすくなりました。森林管理署での業務についてますます興味が高まりました。今回経験したことや学んだことをこれからの進路選択に活かしていきます」

インターンシップ in 鳥取森林管理署

【鳥取森林管理署】

鳥取森林管理署では、9月12日(月)から16日(金)の5日間、鳥取大学の学生1名をインターンシップ(就業体験実習)実習生として受け入れました。

インターンシップは、大学などの学生を農林水産省において就業体験を行わせることにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、農林水産業、農山漁村及び農林水産行政に対する理解を深めてもらうことを目的としています。

5日間の就業体験は、林野庁や国有林野事業の紹介を皮切りに、財産管理業務(境界巡検)、森林整備事業(製品生産監督業務)、治山事業(治山工事調査業務)、林道事業(林道災害箇所調査設計業務)、収穫調査業務(ICT技術を活用した収穫調査)など、主に現場で行う業務を体験してもらいました。

林道災害箇所の測量の際には、落ちていた石を手にして「この石は脆いですが、このような石だからここは崩れているのですか」等、多くの質問をいただきました。

また、収穫調査では調査地の傾斜が急なことや、スキャンカメラを使って撮影した3Dウォークスルー画像に驚きの様子でした。

連日慣れない業務で大変だったと思いますが、残暑が続く

空の下で心地よい汗をかきながら、当署職員と一緒に業務に従事しました。現場業務を体験する中で、各種業務の役割や必要性について多くの質問があり、将来の選択肢と一つとして国有林野事業に強く関心を持っていただくことが出来たと感じています。

鳥取森林管理署では、今後もインターンシップ実習生の受け入れを行っていく予定です。



収穫調査の様子



治山工事調査の様子

令和4年度「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」を実施しました。

【三重森林管理署】

9月16日（金）に三重森林管理署と環境省吉野熊野国立公園管理事務所の共催による「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」を開催しました。

大台ヶ原の正木峠から正木ヶ原にかけては、かつてトウヒやブナなどの森林が鬱蒼とし、林床は湿気や湿潤を好むコケに覆われていましたが、1959年（昭和34年）の伊勢湾台風による大量の風倒木とその搬出を契機に林冠を覆う木々が減少したことにより林床が乾き、現在はササ原に枯木や倒木という風景が広がっています。これを再生するための様々な取組を広く一般



大台ヶ原（正木ヶ原）の景色



移動中の林内の様子

の方に知っていただき、体験していただくことを目的としてイベントを開催しています。

このイベントでは、森林再生応援団となるボランティアの一般募集を行い、申し込んだ方々に参加していただき、トウヒ、

ウラジロモミなどの母樹や稚樹をニホンジカによる食害被害から守る応援作業を実施しています。

当日は、台風14号が接近しており空模様を心配していましたが、幸い天候に恵まれ、総勢33名のボランティアが参集し開催することができました。

はじめに、大台ヶ原ビジターセンター前にて開会式、集合写真の撮影を行った後、5人程度一組の7班に分かれて、正木ヶ原へと出発しました。正木ヶ原に到着し昼食を取りながら、三重森林管理署と吉野熊野国立公園管理事務所から大台ヶ原（正木ヶ原・大杉谷国有林）^{おおすぎだに}における森林再生について、それぞれの取組を紹介し、続いて、この地域で大杉谷登山センター山岳救助隊（宮川森林組合）として活躍されている森正裕氏から、近年の大台ヶ原・大杉谷の様子や宮川森



大台ヶ原ビジターセンター前での集合写真



森氏から昼食時の説明の様子

林組合での地域性苗木^{*}を使用した多様な樹種による森づくりについて説明をしていただきました。参加者は熱心に耳を傾けていました。（※地域性苗木とは、その地域に自生する樹木の種子から育てた苗木のことです。）

午後からは、トウヒの稚樹を守る防護柵内のササ刈り班と、トウヒ・ウラジロモミなどの母樹の剥皮被害から樹木を守るネット巻き班に別れて作業場所まで移動し、職員らから注意事項、作業の手本の説明を受けた後、作業を行っていただきました。（次ページへ続く）

(前ページより)



ネット巻き作業 (三重森林管理署)



ササ刈り作業 (環境省)

遠く熊野灘を望むことができるのですが、台風の影響が背景が雲に覆われた集合写真を撮影し、大台ヶ原ビジターセンターへ戻り、閉会式を行いました。



富士見辻の展望テラスでの集合写真

参加者からは、「ネット巻きをするようなボランティアは他の地域で何度か参加しているが、大台ヶ原は初めて来た。来年も参加したい」、「取り組みについて大変勉強になった。次はササ刈りで参加したい」というような感想をいただきました。

今後も、参加経験の有無に関わらず、森林や動植物などの自然に興味関心を持つ多くの方々のご参加をお待ちしています。

何度も参加している方が率先して作業し、初参加の方もそれに続き、約1時間程度で計画していた作業を終え、富士見辻の展望テラスへ移動しました。本来であれば、富士見辻の展望テラスからの眺望は素晴らしく、

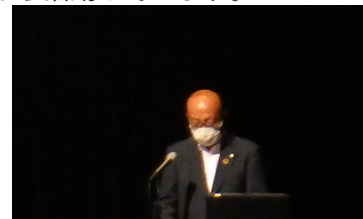
第6回 中国山地森林未来創造協議会に出席しました。

【鳥取森林管理署】

9月1日(木)、日南町総合文化センターさつきホールで行われた、第6回 中国山地森林未来創造協議会に当署から署長外5名の職員が出席しました。

この協議会は、産官学の連携のもと、協働して林業成長産業化地域の創出を図り、林業の6次産業化と継続的に森林を活用していく循環型林業の構築を目指すことを目的に平成29年から活動しています。

はじめに、日南町長から開会の挨拶があり、その後各プロジェクトの活動報告がありました。



日南町長からの開会の挨拶

【各プロジェクトからの活動報告の内容】

○にちなん中国山地林業アカデミーからは「にちなん中国山地林業アカデミーの現状と日南町の持続的な林業の発展について」と「林業アカデミー整備事業と運営について」

○株式会社ウッドカンパニーニチナンからは「ICT技術を活用した循環型林業の確立・コンテナ苗生産基盤施設の整備について」



活動報告の様子(株式会社ウッドカンパニーニチナン)

○日南大建株式会社からは「FSC材・製品流通拡大事業、森林カスケード新マテリアル事業について」

○日南町役場農林課からは「SDGs・脱炭素社会の実現へ向けた日南町の取組事例紹介」

当協議会では、木材市場や加工工場などを1ヶ所に集約した木材流通加工拠点「日野川の森林木材団地」の整備により県内の木材流通量の3分の1を集材し、にちなん中国山地林業アカデミーによる新たな林業担い手の育成、LVL材(構造用単板積層材)の不燃化処理など高付加価値化事業の取組、チップ材を原料に加工した農業・園芸資材の木質培地「グロウアース」の開発など、林業成長産業化地域として精力的に活動されており、今後の取組にも期待されます。

再造林の省力化等に係る現地検討会を開催しました。

【滋賀森林管理署、和歌山森林管理署】

8月30日(火)、31日(水)に滋賀県林業普及指導員、和歌山森林管理署・滋賀森林管理署職員を対象として、再造林の省力化等に係る現地検討会を和歌山森林管理署管内の国有林において実施しました。

今回の現地検討会は、滋賀県では県内の森林資源が充実し本格的な利用期を迎える中で、主伐・再造林の推進が課題となっていることから、主伐後の再造林の省力化・低コスト化や効果的なシカ被害対策について、先進的な取り組みを実施している和歌山森林管理署の管内において実施することとしました。

初日は、^{みやしろがわ}宮城川国有林(和歌山県すさみ町)の主伐と造林の一貫作業を実施した箇所において、労働負担の軽減につながる冬下刈りや無下刈りの実行箇所、安価で簡易な農業資材を活用した防護柵、海外製の新たな円形シカ捕獲わ



円形シカ捕獲わ



安価で簡易な防護柵

な、新考案のN型ノウサギ捕獲わ等を見学しました。2日目は、和歌山森林管理署会議室にて、質疑応答、意見交換を行いました。滋賀県からは、冬下刈りの発想はなかった、安価で簡易な防護柵を早速県有林で試してみたいなどの感想がありました。



冬下刈り実行箇所



意見交換の様子

今後とも、滋賀森林管理署では、林業の成長産業化に資する取り組みを進め、地域の森林・林業の発展に貢献できるよう引き続き取り組んでまいります。

令和4年度山口県地域林政連絡会議を開催しました。

【山口森林管理事務所】

8月5日（金）山口森林管理事務所において、令和4年度山口県地域林政連絡会議を開催しました。

この会議は、森林・林業の再生に向けて民有林と国有林との連携が重要となっている中、昨年度に引き続き、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター

山口水源林整備事務所（以下・山口水源林整備事務所）にも出席していただき、山口県、近畿中国森林管理局及び山口森林管理事務所と



会議で挨拶する松本次長

の間で、民有林、国有林それぞれの取組に関する情報提供・意見交換などを行い、地域課題を把握・共有し、森林・林業の再生・推進に当たって、一層の連携強化を図ることを目的として開催しているものです。

山口県からは、「スマート林業技術導入の取組」「林業の成長産業化に向けた今後の取組」、山口水源林整備事務所からは、「水源林造成事業の取組」、近畿中国森林管理局からは、「令和4年度の重点取組事項」「国有林における市町村支援メニュー」等、山口森林管理事務所からは、「令和4年度重点取組事項」について情報提供を行い、その後林業のスマート化、ウェアラブルカメラの



会議の様子

導入や冬下刈りの効果、シカ柵の効果的かつ経済的な設置方法等について意見交換を行いました。当所も含め今後も山口県及び山口水源林整備事務所と地域林政の課題解決に向けて連携していくことを確認し、会議を終了しました。

お知らせ

森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

10月19日（水）～11月4日（金）の展示は、森林総合研究所関西支所・京都大学・京都府立大学・近畿大学、林木育種センター関西育種場です。

ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



【技術普及課】

○令和4年度森林・林業交流研究発表会を11月15日（火）～16日（水）に開催します。

当局職員のほか行政機関や研究機関、高校生の方々から、森林・林業に関する研究取組について発表いただきます。YouTubeによるライブ配信も予定しています。

詳しくは下記をご覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/koho/event/gijyutukaihatu/20170324.html>



【箕面森林ふれあい推進センター】

○当センターの様々な活動を紹介している「こだま通信120号」を発行しました。

これまでのバックナンバーも載せていますので、ぜひご覧下さい。

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/booklet/kodamatushin.html



花草木

【アキニレ】

アキニレ（学名：Ulmus parvifolia）はニレ科ニレ属の落葉広葉樹で別名は石ゲヤキ、河原ケヤキ等と言われます。高さ 15m、直径 60cm ほどになり、中部地方以西～沖縄の山野の荒れ地、川岸や河原に自生します。樹皮は灰緑色～灰褐色。褐色の小さな皮目があり、不ぞろいな鱗片状にはがれ、まだらに斑紋が残ります。

用途は、樹皮の様子が個体によって様々で味わい深いことと黄葉の美しさや丈夫な性質を生かし、公園や街路樹として利用されています。盆栽（ニレゲヤキ）として利用されることもあるようです。

花は9月に枝の葉腋に4～6個の花がまとまって付きます。ガクが茶色っぽく、花弁は小さく、花としては目立ちません。



大阪市内の公園で見つけたアキニレ

我が署のスタッフ

三重森林管理署

近藤 慎吾 (こんどう しんご) (令和4年度採用)

【現在取り組んでいる仕事は？】

業務グループの係員として、資源活用や経営など、業務グループ全般の業務に携わっています。林業の知識がまだ浅い私にとっては、何もかもが新鮮に感じられ、刺激的な日常を送っています。

まだ一年目であり、わからないことや、聞き馴染みのない言葉などがたくさんありますが、新規採用という立場を存分に活かして、いろいろなことを学べればと思います。

【職場の雰囲気は？】

わからないことを聞きやすい雰囲気です。またグループ問わず様々な業務の現場に行く機会があります。たくさんの人から様々な話を聞くことができ、とても勉強になります。

【林野庁の魅力は？】

事務だけでなく、山に入ることもある点が魅力的だと思います。山で食べるお昼ごはんは絶品です。また、普段は目にしないような生物に出会えるのも魅力の一つで、個人的にはすごく楽しんでいます。



国有林内で収穫調査・OJT



3次元レーザスキャナを設置中・OJT

森林事務所紹介

上賀茂森林事務所（京都大阪森林管理事務所）

首席森林官 山下 功三（やました こうぞう）

上賀茂森林事務所は、京都市（上京区・北区・右京区・左京区の一部）、綾部市、福知山市の一部、亀岡市、南丹市、船井郡京丹波町を管轄区域とし、国有林（1,331ha）及び官行造林（345ha）を首席森林官をはじめ期間業務職員1名、非常勤職員1名の3名で管理しています。

管内の国有林は、奥地脊梁地帯から中山間地、都市近郊まで所在していますが、都市近郊林がその半分近くを占め、住宅地及び観光地に隣接している点が特徴的なところです。

このため、請負事業で行う、造林事業（植付、下刈、防護柵設置点検等）や生産事業（間伐）といった森林整備の実行に留まらず、住宅地周辺等の危険木処理、境界線の刈り払い、観光地における風倒木処理など、多岐に亘る多くの業務に対応しています。これらの請負事業の監督業務に加え、第1種境界巡検（852点）及び林野巡視、地域住民からの要請や苦情への対応、国有林野の貸付等の事務処理（30件程度）、危険木等収穫調査等の業務を行っています。これらも業務については、管理面積の半分近くを占める都市近郊林関係が大きなウエイトを占めています。

なかでも、地域住民からの要請や苦情対応は、数字では測れない都市近郊林特有の重要な業務として挙げられます。内容としては、国有林からの水及び土砂の流出、草の繁茂、危険木、落枝・落葉、シカの出没等が挙げられます。丁寧かつ臨機応変な対応が求められ、森林事務所の職員のみで対応することが困難な場合が多いことから、全面的な本所のバックアップのもと、本所と森林事務所が一丸となり、地域に貢献すべく対応しています。



高さ日本一の花脊の三本杉（大悲山国有林）

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/vr/index.html#> 第2弾 花脊の三本杉



ヘリにより行われた被害木の運材（貴船山国有林）

管内の国有林では、平成30年21号台風の風倒木の処理と治山対策に計画的に取り組んでいますが、傷跡が未だ残っていることから、引き続き台風被害地の早期復旧に努めるとともに、地域住民からの様々な要請に適切に対応し国有林野を名実ともに「国民の森林」とすべく日々の業務に取り組んでいます。



観光地の一つである貴船の川床（鞍馬山国有林）

シリーズ『国有林 最前線！』

令和4年8月の集中豪雨に伴う福井県、石川県への災害対応について

森林整備課、福井森林管理署、石川森林管理署

近畿中国森林管理局では、令和4年8月4日（木）から5日（金）にかけて発生した集中豪雨に伴い、石川県や福井県を中心に発生した甚大な被害に対し、以下の対応を行いました。

～福井県南越前町の併用林道の復旧に向けて～

福井県南越前町では、家屋の全壊や半壊、床上浸水などの被害に加え、道路や河川などのインフラも数多く被害を受けています。林道も例外ではなく、併用林道となっている滝ヶ谷林道では、林道の形跡すら分からないほどの被害が発生しており、福井森林管理署と町との調整を経て、9月12～14日に国有林で災害申請にかかる調査を実施しました。今後、調査結果を踏まえ、災害申請に向け手続きを行うことにしています。



既設の路肩擁壁の被災状況と位置の確認
滝ヶ谷林道（南越前町）



被災した林道のセンターの横断測量
滝ヶ谷林道（南越前町）

～石川県白山市への緊急的な職員の派遣～

石川県から、被害の甚大な白山市において、被災した民有林林道の早期復旧を図るため、災害の応急・復旧対策の専門的な知識を有する林野庁職員による技術的な支援を求められ、緊急的な対応として石川県を管轄する近畿中国森林管理局から森林整備課及び石川森林管理署の職員を派遣しました。（期間：令和4年10月2日～10月14日（13日間））



被災した林道の復旧に向けた技術指導
（白山市）



被災林道の現地調査後、写真で状況確認
（白山市）